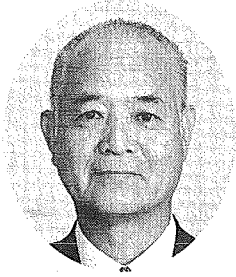


「資源戦争」に思う



日本ルツボ株式会社
代表取締役会長 岡田民雄

明けましておめでとうございます。

昨年は、黒鉛坩堝や、耐火物をご利用いただき大変有り難く、深く御礼申し上げます。

日非協の会員の皆様にとりまして昨年は地金や燃料等、あらゆる原材料の値上がりに悩まされたことごさいます。私共も、黒鉛坩堝の主原料である黒鉛や炭化窒素、それに耐火物用のアルミナなど中国より主に輸入しておりますが、価格高騰だけではなく入手難にもなりました。

これからは、国と国とが領土を奪い合うような戦争は起きないことなのでしょうが、それに代わり経済活動に最も必要な石油、天然ガスを始め、各種鉱物、食糧、淡水と言ったような資源を獲り合う、「資源戦争」が益々激しくなるものと思います。現に、中国・ロシア・アメリカと言ったような大国が貧しい国を支援する、内乱を治めてやるような名目で資源確保に躍起になっています。

しかし日本では、ねじれ国会などという、おかしな現象でトップの力が弱く政策決定が何一つできない、国民、企業を支援すべき官庁の力は萎縮して、金融庁、公取、環境省のような取締り側の官庁が益々力を付けて来ています。農業・漁業を支援すべき農水省までも賞味期限のみ目が行って、食糧自給率39%いや、家畜の飼料まで含めると25%まで下がると言われています。食糧をどう確保するか政策など一般国民には全く伝わっては来ません。私は少なくとも休耕地を一日も早く復活することをやるべきだと思っています。経産省ですら、新潟沖地震の際、東京電力の社長を呼び付け、大臣が嚴重注意をしていました。それよりも私は「電力は国民生活に必要な不可欠なもの、政府が全面協力をするから、国民の安心のためにも一日も早く復旧して欲しい」と励まして欲しかった。地球温暖化防止のためにも、安定供給のためにも原子力発電しかないと思は思っています。

従って原子力発電は安全なものであることをもっとPRし、国民を安心させることが大切だと思は思っています。

我々の身近な所でも、経産省、素形材産業室では各素形材産業のビジョンに対し、熱心に応援してくれようとしている活動が、トップの考え方、行動で埋もれてしまうようなことがあつては

一体、ダイオキシンやBSEで何人の人が死んだのか、それよりも生活苦で自殺される人が年間3万人以上います。これは自殺として届けられた人数であり、実数はもっと多いことでしょう。自殺者を多く出すことは、国として恥しいことだと私は思います。

日本には資源がないと言われていています。確かに天然資源はないが、自動車、ビル、家電、ペットボトル、アルミ缶などから出るあらゆるスクラップ、いわゆる都市資源と呼ばれているものは豊富にあります。この貴重な資源が中国等にたれ流し状態に輸出され、価値のある部分だけが利用され、不要なものが捨てられ、それらが公害のもとになると、「日本は公害を輸出している」と非難されることになってしまいます。それよりも日本政府はこれら都市資源を日本国内で公害を出すことなく、有効活用をすることと民間と一体になって真剣に政策を立て、実行すべきだと思います。どんなにすばらしい技術があっても資源・原材料がなければ、製品は造れません。

このような考えを持ちながら、小さな規模ではありますが、私はペットボトルを助燃材としてアルミ缶をリサイクルする炉、油の付いたままのアルミ切粉の付着油を助燃材とした、高歩留の切粉リサイクル炉、シュレッダーダストや細かい電線屑より有価金属を回収できる炉を開発し、都市資源を少しでも回収できる、日本の国益につながるよう努力していきたいと思っています。是非皆様のお知恵、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

どうぞ、2008年が皆様にとり良いお年でありますようお願い申し上げます。